

1 研究テーマ

不登校を生まない共感的な学級づくりを目指して

～ 絆づくりとしての教科指導のあり方を探る ～

2 はじめに

不登校の原因は多岐にわたっており、それぞれに状況はまちまちである。不登校状態になった直接のきっかけをみると、「友人関係をめぐる問題」が最大のきっかけになっている。友人との人間関係づくりは個と個の絆づくりを基盤としている。日々多くの時間を費やして行われている教科指導をこの視点で行うことは意義あることだと考え、本研究に臨んだ。

3 研究の目的

絆を強める（児童の自己肯定感や共感的な仲間意識を高めていく）ために教科指導の中でどう取り組んでいったらよいかを考え、不登校を生まない学級をつくる方策を探っていくことを目的とした。

4 研究の内容

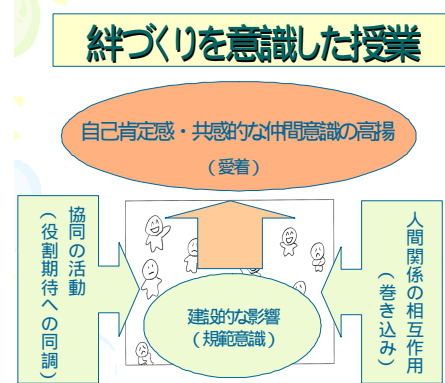
研究仮説 絆づくりを意識した授業をすることは不登校の予防につながる。
絆づくりについて T.ハーシの「ソーシャル・ボンド理論」を基にした。

- * ソーシャル・ボンド = つながりの糸、社会的絆
- 「アタッチメント（愛着）」
- 「インヴォルヴメント（巻き込み）」
- 「コミットメント（役割期待への同調）」
- 「ビリーフ（規範意識）」

ソーシャル・ボンド理論と関連させて

「絆づくりを意識した授業」を次のように考えた。

学級のメンバーの「協同の活動」（役割期待への同調）や「人間関係の相互作用」（巻き込み）を通してメンバー同士が相互に「建設的な影響」（規範意識）を与え合い、「自己肯定感や共感的な仲間意識を高める」（愛着）ことのできる授業



実践例 第3学年

【実態把握】

- 《聞き取り》
- ・ 学級の雰囲気
 - ・ 児童同士の間人間関係
 - ・ 授業・休憩時間の様子 など

- 《諸調査》
- ・ 楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U
 - ・ 自尊感情 5 領域テスト
 - ・ 自己他者肯定感テスト

- 《総合的なアセスメント》
- ・ 学級の雰囲気について
 - ・ 児童同士の結びつきについて
 - ・ 学級のルールについて など

- 《対応の方針》
- ・ 児童の気持ちを理解し、認められるような場を多くつくる。
 - ・ 基本的な生活や学習のルールを確認し、一つ一つ具体的に児童に伝えていく。
 - ・ ゲーム的な要素も取り入れ、雰囲気の緩和を図る。 など

【授業実践】

国語科「漢字の組み立てと意味」(2時間)

絆づくりの視点 ・ルール定着のためのプリント学習(沈黙の時間の共有)

- ・「博士の漢字クイズ」 一人ひとりのペースで進めることで沈黙の時間の共有
- ・「漢字仲間集め」 お店型ジグソー学習 ・聞く態度(ルール)の確認徹底
- ・指導者や仲間からの気になる児童への肯定的言葉かけ・態度
- ・全体へのルールを意識した言動への評価言

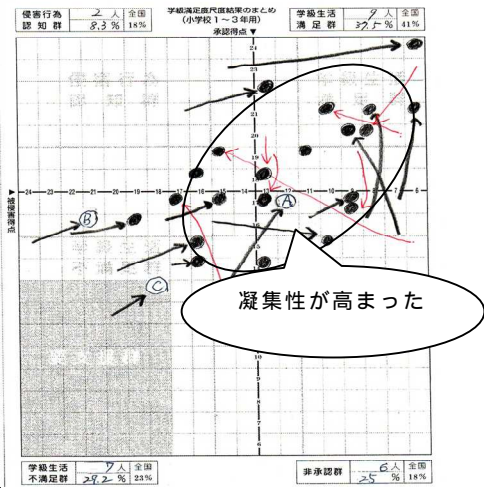
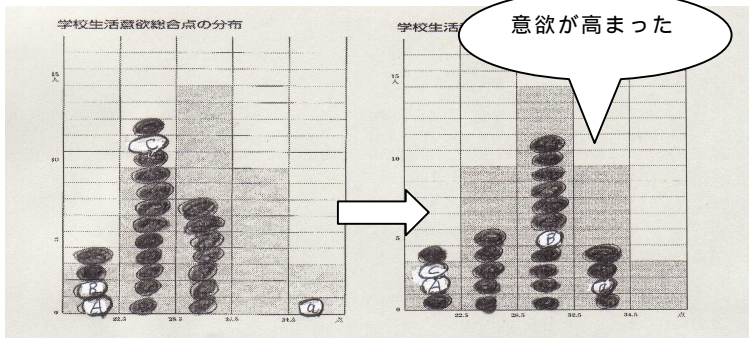
音楽科「ふしや音の重なりを感じて」(3時間)

絆づくりの視点 ・一人ひとりが責任を持って演奏することで自己肯定感を高める。
・意図的な小グループで教えあうことで絆を強化する。

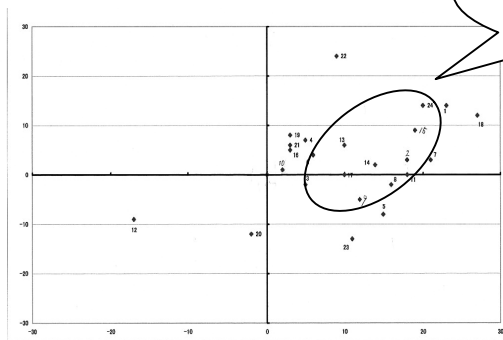
- ・「せいじゃの行進」 聴き合い(うなずき合い)
- ・「夕やけ小やけ」「てるてるぼうず」 仲間との練り合い(2人 4人)
聴く・発表する態度(ルール)の確認徹底
- ・気になる児童へ仲間からの助言・賞賛
- ・教師や仲間の言葉や態度による励まし

【評価】

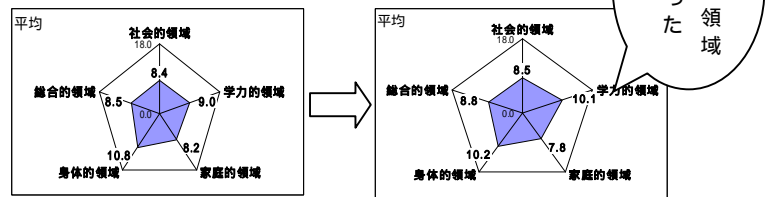
楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U



自己・他者肯定感テスト



自尊感情5領域テスト



5 研究のまとめ

ペア学習・グループ学習【ジグソー学習】・
ルールの確認・沈黙の時間の共有・指導者
や仲間の言葉や態度による励まし

学習意欲・友達関係 **上昇**
自己他者肯定感
不登校傾向児童の自尊感情

絆づくりを意識した授業は
不登校の予防につながる

6 今後の課題

- ・より適切な分析・見取りの技量向上の必要性。
- ・高まりの見られなかった児童の実態分析・支援の方法の再検討(K-13法などの活用)。
- ・他の不登校児童・不登校傾向児童への適用。

7 おわりに

児童の学校での居場所の中心は学級であり、それをマネジメントするのが学級担任である。本研究で学んだ絆づくりを意識した授業や見取りの方法などをこれからの学級経営に活かしていきたい。